

模擬国連・英語シミュレーション at the English Festival

- 日時 平成30年1月19日(金) 15:30 - 16:20
- 場所 昭和女子大学 人見記念講堂
- 参加者 中学1年、2年、3年、高校1年、2年、3年

模擬国連の活動を本校のEnglish Festivalの中で全校生徒に紹介しました。メンバーと顧問で話し合いを重ね、全校生徒を巻き込んで「全員参加型」の模擬国連シミュレーションを作ってみようということになりました。



「国連総会・緊急特別会合・開始!」。字幕のように日本語を出したが、発話はすべて英語で実施。



発言するイエメン大使。前席2人は議長。



会場に投票を呼び掛ける大使。

発表当日、人見記念講堂を「国連総会ホール」に見立てて、会場は大使席として、国連総会を開始しました。学年ごとにある国の大使になってもらい、決議案に全員が投票するという前代未聞のシナリオです。

決議案は実際に昨年12月に国連総会で決議された「エルサレム問題」。1年はエジプト、2年はイエメン、3年は米国、4年イスラエル、5年トルコとし、舞台上でメンバーによる「大使演説」を聞いてもらい、その後、会場の各学年の座席から、決議に対してYesか Noを答えてもらいます。

会場から、笑い声と共に Yes, Noの声が上がった時は、メンバー一同、発表の成功を実感した瞬間でした。

総会では、「エルサレムをイスラエルの首都と認め、アメリカ大使館を移す」という米国の決定に対し、トルコとイエメンが反対の決議案を提出。これは賛成3（トルコ、イエメン、エジプト）、反対2（米国、イスラエル）と、賛成多数で可決されました。



学校全体で、国際問題について一人ひとりが英語で考え、大使として声を挙げるといった本校初の画期的な試みが、成功裡に終わりました。



議長と大使たち。

「学校全体を巻き込んでやれたことが何より良かった」とメンバーは口をそろえて言います。

「練習は数日しかできなかったけれど、みんなで意見を出し合いながらシナリオを作って行きました。学年を問わず、一人ひとりが大事な役割を担って、みんなで心をつなげて創り上げられたことが良かったです。模擬国連のことも少し知ってもらえたかなと思います。」

「チャレンジすれば、困難に思えたことでも達成できるという体験ができました。」



経験を語るゲストの6年生。

会は12月に始動したばかりで、日も浅い中、人見記念講堂で大きな発表のチャンスが回ってきました。メンバーは怖気づかず、果敢にチャンスに挑み、成功体験を積むことができました。

模擬国連には、「自分で考え、意見を述べ合い、異なるものをまとめて合意形成に向かう文化」が土台にあります。この文化が徐々に校内に広がって行くことを期待しています。



舞台上の群読の様子。

